

新規事業創出・事業拡大

事業を加速させる業務提携など、多彩な手法で新規事業を創出。

ニコンでは、新規事業の創出および既存事業の拡大のために、さまざまな企業との業務提携を積極的に行っています。例えば、2023年には金属3Dプリンター業界をリードしてきたドイツのSLM Solutions Group AGをグループへ迎えました。また、映像文化のさらなる発展に貢献するべく、2022年4月には、株式会社ニコンクリエイティブの営業を開始し、次世代映像コンテンツ事業へ本格的に参入しました。ニコンのコア技術と社外のリソースを組み合わせることで、新たな事業の立ち上げを加速させています。その他にも、プライベートファンドを通じた戦略投資やベンチャーキャピタルとの協業など、事業領域の拡大を目指し、新規事業の創出と育成を推進しています。

🤝 アライアンス

大学や他企業、外部団体など、社外との業務や資本の提携、共同研究、M&Aによる子会社化などのさまざまなアライアンスを構築。自社の技術だけでは足りない部分を補い、既存事業領域の周辺分野への進出や新規事業の獲得など、事業領域と事業規模の拡大を図っています。近年では、今後の成長の牽引役となる事業を中心に、新たな業務提携を行うことで、新しい装置の開発や販売機会の拡大などを積極的に推進しています。

最新の例

- ドイツの金属3Dプリンター大手 SLM Solutions Group AGを子会社化
- 米国のMorf3D Inc.に出資、子会社化
- 英国のOxford Nanopore Technologies Limitedとの協業
- オーストリアのbionic surface technologies GmbHと戦略的共同開発契約

💡 プライベートファンド

ベンチャー企業に投資するプライベートファンドをSBIインベストメント株式会社と共同で設立し、同社が培ってきた成長分野への投資実績と経験を活用。日本および北米を中心に、欧州、アジア地域などにおいて、ともに将来のストーリーを描ける可能性のあるベンチャー企業への投資を通じて、新規事業創出、育成の推進、強化に取り組んでいます。

投資分野

- 宇宙航空 ■カーボンニュートラル
- スマートシティ ■材料加工 ■センシング
- AI・画像処理 ■IoT ■光学
- デジタルマニュファクチャリング
- ビジョンシステム/ロボット ■ヘルスケア

🏢 ベンチャーキャピタル(VC)との協業

新規事業の拡大に向けて、日欧米の複数のVCに出資。各VCからは多くのディール情報やトレンド情報を提供いただくとともに、定期的なミーティングで情報を交換。ベンチャービジネスの調査・比較、対象会社の事業調査や将来価値の推測算定など幅広いサポートを得ています。

主な出資先

- SBIインベストメント ■Geodesic Capital
- Beyond Next Ventures ■500 Startups Japan
- コランダム・イノベーション / Corundum Open Innovation など



TOPIC 1 デジタルマニュファクチャリング事業の一層の推進に向け、SLM Solutions Group AGを子会社化。

金属アディティブマニュファクチャリング(AM)の黎明期より業界をリードし続け、多様な顧客企業の長期的な成功を支えてきたドイツの金属3Dプリンター大手「SLM Solutions Group AG (SLM)」。

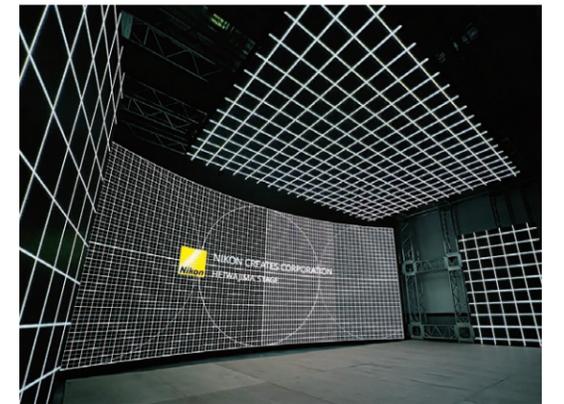
ニコンは、グループに迎えたSLMとともに、世界中の幅広い業界の顧客に対し、スピード感をもって独自の金属AMソリューションを提供していきます。



SLMの主力製品「NXG XII 600」

TOPIC 2 新しい映像表現の共創へ、ニコンクリエイティブ「平和島ステージ」稼働。

次世代映像コンテンツの企画から制作までを行う株式会社ニコンクリエイティブ。その新たな複合撮影施設「平和島ステージ」がフル稼働を開始。大型LEDディスプレイに映像を映し出し、撮影現場の空間をスタジオで再現できる「バーチャルプロダクション」や、被写体の動きなどを忠実に3D映像化できる「ポリュメトリックビデオ」撮影システムなどの設備がひとつの撮影施設に結集。次世代クリエイターの感性と最新映像テクノロジーを融合させ、新たな映像表現の共創を目指します。

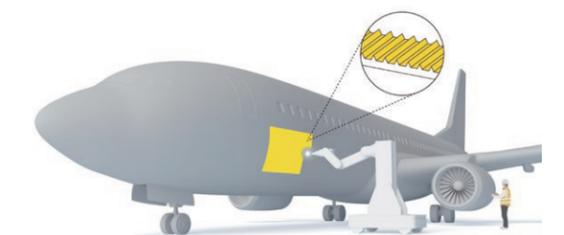


「会社案内コンセプトムービー by Nikon Creates Corporation」はこちらから。
<https://www.jp.nikon.com/company/corporate/companyprofile/#movie>
 表紙の画像は本動画と同時に撮影して制作したものです。



TOPIC 3 サメ肌に着想を得たリブレット加工^{*1}で航空機の環境性能を向上。

物体の表面に微細な溝を施し、空気や水などの摩擦抵抗を減らすリブレット加工。ニコンはこの加工を施したフィルムを全日本空輸株式会社(ANA)に提供し、国内で初めて^{*2}航空機に試験装着し運航を開始しました。また、日本航空株式会社(JAL)、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)、オーウエル株式会社とともに、機体に直接リブレットを施工した航空機による世界初^{*3}の飛行実証試験を実施。それらの試験データをエネルギーロスやCO₂排出量削減に活用していきます。



^{*1} リブレット:サメ肌形状によって水の抵抗が軽減されることにヒントを得て考案された微細な溝構造。航空機の飛行時の空気の流れに沿って機体外板に微細な溝構造を形成することで、飛行時の抵抗を軽減することができる。 ^{*2} 2022年10月3日時点で発表済みの航空機において、ANA調べ。 ^{*3} 2023年2月28日時点で発表済みの航空機において、JAL、JAXA、オーウエル、ニコン調べ。